

製品名: MINK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13906**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	150kDa

抗原情報

遺伝子名	MINK1 MINK1; B55; MAP4K6; MINK; YSK2; ZC3; Misshapen-like kinase 1; GCK family kinase MiNK;
別名	MAPK/ERK kinase kinase kinase 6; MEK kinase kinase 6; MEKKK 6; Misshapen/NIK-related kinase; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase kinase 6
遺伝子 ID	50488.0
SwissProt ID	Q8N4C8
免疫原	抗血清はヒト MAP4K6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 401-450

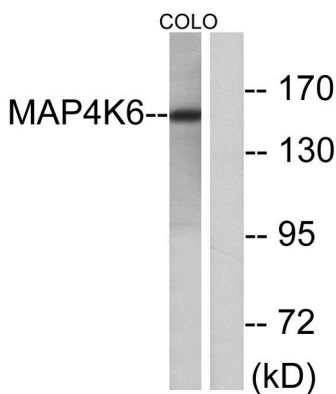
背景

この遺伝子は、胚中心キナーゼ (GCK) ファミリーに属するセリン / スレオニンキナーゼをコードしています。このタンパク質は NIK 関連キナーゼと構造的に類似しており、GCK ファミリー内の NIK 関連キナーゼの異なるサブファミリーに属する可能性があります。マウスホモログの研究では、マウスの出生後脳発達過程における発現の上昇、および cJun N 末端キナーゼ (JNK) と p38 経路の活性化が示唆されています。[RefSeq 提供、2016 年 3 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質、補因子: マグネシウム、機能: 環境ストレスへの応答において役割を果たす可能性のあるセリン / スレオニンキナーゼ。JUN N 末端経路の上流で作用すると考えられます。脳の発達に役割を果たす可能性がある。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1つの CNH ドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。組織特異性: 脳で発現し、アイソフォーム 2 はアイソフォーム 1 よりも豊富である。

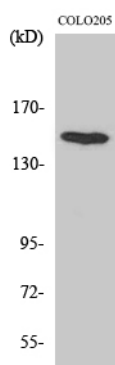
研究分野

神経科学; 神経プロセス; 神経シグナル伝達; シグナル伝達; タンパク質リン酸化; Ser/Thr キナーゼ; MAPK 経路

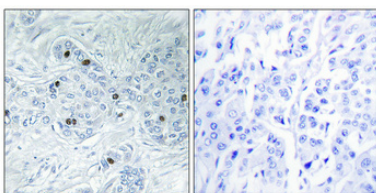
画像データ



MAP4K6 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MINK1 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。